

也

〔豐鑑長濱真砂〕明る天正二年の春、小谷山は北にさかひ雪いとふかくさえまさる空のくるしみあり、三里餘のいぬるにあたり、今濱とて古き城所あり、海にそひて雪淺く、舟の往來も便ありて、今信長の御座安土山へも程遠からねば、かふり仕るに煩なし、此所にすまむとて、堀をふかくし、石ぐらを打まはしとのづくりしてうつり給ひぬ、今濱のなをあらためて長濱とならん、君が代も我よも共に長濱の真砂の數のつきやらぬまで、たれ人のよみしといふことも忘れにけり、

〔和漢三才圖會近江〕近江彦根一名佐和山、東至江戶百六里七町、西至京師十七里餘、北東至越前府中三十里、寅卯至美濃大垣九里、半坤至膳所十三里、

〔扶桑略記白河〕承曆三年、攝津國水田郡石良里有沙門德滿者、上野延末之子也、生年二十歲、兩眼

忽盲、經三年、參鞍馬寺祈禱、無驗、從寺出、參籠長谷寺、祈請至第七日、夢見自御帳中老僧出來云、

我力不及、汝當往、近江國犬上西郡彦根山西寺觀音靈驗之處、致誠祈願、三日之内、各可有驗、略下

〔西遊行囊抄八〕彦根白鳥居本一里、城主井伊掃部頭此所ハ湖邊ノ便地、江州ノ大縣也、町數千軒、富人

多シ、靈神靈社有、其外寺社多シ、

〔近江國輿地志略二〕建置沿革、莊 今當國にて、民間稱する處の莊名、亦舊書の中に出たる、其一二を

擧る、

志賀郡 錦織莊寺門侍記補錄曰、源賴義、途館、錦織莊云々、 志賀莊土俗の傳ふ 栗津莊源尊氏新羅社の寄文に

にも 和邇莊後醍醐天皇三井寺へ下した 柳田莊土俗の傳ふ

甲賀郡 檜物莊撰集に多し、檜物の什物、源賴朝及尊氏の蒲櫻をよめり、是なり、東寺村阿星山長壽寺

蒲生郡 火切莊土俗のつたふる處なり、江家次第

神崎郡 高屋莊源氏物語に、高屋の妙法寺のこと 伊庭莊源爲義に伊庭莊を賜

莊保